

# 琉球大学学術リポジトリ

## ラテン・アメリカの概況

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21291">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21291</a>

\*\*\*\*\*

# ラテン・アメリカの概況

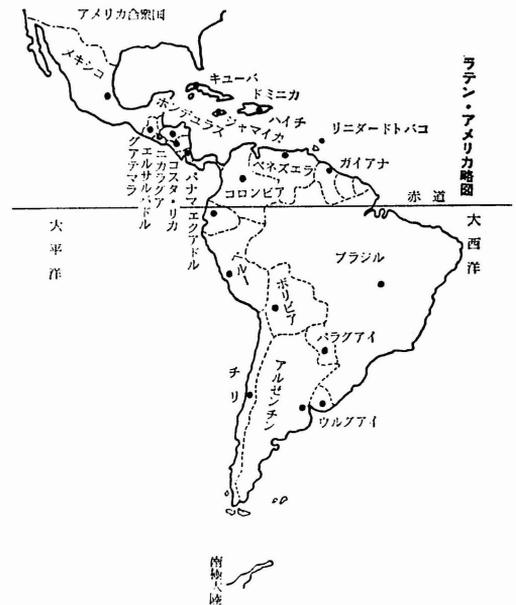
\*\*\*\*\*

世界の人々の、また我々同胞の移住の重要な受入地域である「ラテン・アメリカ」と呼ばれる地域についてその概況を述べてみよう。

この地域はメキシコとその南の中米、及び南米大陸ならびにカリブ海諸島を含む広大な地域で面積は約2,100万km<sup>2</sup>で日本の約57倍にあたり、人口は約2億人と推定され、人口密度は1km<sup>2</sup>当り平均9人であるが最近における人口の増加率は世界最高といわれている。ラテン・アメリカは中米に13ヶ国、南米に11ヶ国、合計24の独立国と英仏蘭の植民地から成立ちそれぞれ国情は異なっているが極めて類似した点も多い。この地域は世界人種の混血地帯ともいわれ、白人、インディオ、ニグロの三人種及び、これらによる多数の混血人と少数の中国人、日本人等によって構成されている。白人の国といわれるのは南米のアルゼンチン、ウルグアイ、チリーと中米のコスタ・リカの4ヶ国で、カリブ海に浮ぶハイチはアフリカ系の黒人の国であり、その他の国々は多少の差はあるが白、黒、黄褐色系の人種の混住と混血の国である。

ラテン・アメリカの歴史は1492年コロンブスの新大陸発見を境いとしてそれ以前と以後に大きく分けられる。

発見以前は数種族の先住民インディオの時代であるが、1世紀頃から16世紀の初めにかけてはメキシコを中心にマヤとアズテカの文化が栄え、天文学と暦が進み石造、織物、染色の技術に優れていたが、1519年スペイン人コルテスの侵略によって滅ぼされた。なお南米においては古くからユ



ンカ、アイマラの種族が栄えたが、それぞれインカ族に征服された。インカ族は10世紀から15世紀にかけて約500年間、今日のペルーを中心に栄え、中央アンデス山脈一帯に大帝国を誇り、天文学が発達し優れた暦や日時計を持ち、その他石造土木と金属製作の技術、織物と農耕の技術に極めて優れていたが1533年スペイン人ピサロの策略によりインカ帝国はあえなく滅亡した。

15世紀末になってスペイン、ポルトガル人の海外発展はめざましく金銀財宝の取得とカトリックの布教を目的にラテン・アメリカ地域に進出し、やがてこれらの地域は征服され、両国の植民地と

第1表 中南米主要受入国国情一覽表

国名	面積	人口(人口密度)	人口増加率	人種	首府		通貨	国語
					名	人口		
アルゼンチン	2,826千平方km (日本の約8倍)	23,000千人 (8人)	1.7%	殆んど白人 (スペイン、イタリヤ系)	ブエノスアイレス	約400万人	ペソ	スペイン語
ブラジル	8,514 (日本の約22倍)	80,000 (9人)	2.4	白人60% 黒人8% 混血30% インディオ2%	ブラジリア	約20 "	クルゼイロ	ポルトガル語
パラグアイ	406 (日本より約1割大)	1,900 (4.6人)	2.3	大部分白人と インディオの混血	アスンシオン	約30 "	ガラニー	スペイン語
ボリビア	1,098 (日本の約3倍)	3,787 (3.4人)	2.2	白人14% インディオ 55% 混血31%	ラパス	約36 "	ボリビアーノ	"
ドミニカ	48 (九州四国合せた大さ)	2,894 (60.2)	3.5	白人20% 黒人11.5% 混血68%	サントドミンゴ	約48 "	ペソ	"
日本	369,662平方km	100,000 (270人)	1.2	日本人	東京	約1,000 "	円	日本語
沖繩	2,388 (日本の約155分の1)	約970 (約406人)	1.7	日本人	那覇	約28 "	ドル	"

註 参考のため日本及び沖繩を附記した

なつた。ポルトガル人は今日のブラジルにあたる地域を征服したに止つたが、スペイン人は各地に進出し残りの全ラ米地域をその支配下におさめ、以来300年間に亘り植民地としてほしいままに統治してきた。

18世紀末に至りアメリカ合衆国の独立(1776)及びフランス革命(1789)の影響を受け、直接的には1807年ナポレオンによるスペイン及びポルトガル本国の制圧を契機として、植民地人の自覚は高まり、ラテン・アメリカの諸地域においては相次いで独立運動の風潮が高まつた。19世紀において約100年の間にそれぞれの国が本国から独立す

るようになった。

次に主なる国々が独立した年をひろつてみると次の通りである。

メキシコ(1811)、キューバ(1898)、ドミニカ(1844)、ペルー(1821)、ボリビア(1825)ブラジル(1822)、パラグアイ(1811)、アルゼンチン(1816)、チリー(1818)、ウルグアイ(1828年)。

独立以来約150年間においてなされたこれら各国の国土の開発と経済の発展は北米のアングロ・アメリカに比べて著しくおこなわれている。清教徒の北米移住は1620年であり、スペインの植民開始よ

ラテンアメリカ各国の比較

国名	(第2表生産報告)					(第3表運輸通信報告1964年)						
	1人当り 粗電力	1963年 セメント	1963年 天然ガス	1964年 石油	1964年 自動車	道路	鉄道	船舶	電話	ラジオ	テレビ	
	kg kw/h	kg	m <sup>3</sup>	1000m <sup>3</sup>	台	km	1000km	1000トン	100人当り	1000人当り	1000人当り	
アルゼンチン	58.1	555	133.44	284.9	15958	22782	43.2	1284	6.5	317	60	
ボリビア	—	133	15.24	—	508	615	3.2	—	0.5	167	—	
ブラジル	38.6	385	69.6	6.01	5296	14856	36.8	1271	1.6	108	26	
コロンビア	11.86	308	118.9	148.3	9952	6019	3.2	132	2.4	260	21	
コスタリカ	—	367	23.0	—	—	1099	0.651	—	1.5	161	19	
チリ	64.4	701	149.0	74.5	2176	3338	11.2	284	2.8	300	4	
エクアドル	—	99	58.7	—	445	1479	1.0	—	0.9	133	1	
エルサルバドル	—	124	31.42	—	—	1056	0.619	—	0.7	141	9	
グアテマラ	—	89	43.25	—	—	1497	0.862	—	0.5	58	10	
ハイチ	—	—	12.44	—	—	442	0.320	—	0.1	22	1	
ホンジュラス	—	54	33.95	—	—	381	2.0	90	0.5	112	3	
メキシコ	57.4	344	109.8	351.0	18375	33735	23.0	265	1.7	113	25	
ニカラグワ	—	154	38.12	—	—	811	0.346	—	0.9	88	3	
パナマ	—	316	104.1	—	—	1062	0.280	4269	3.3	333	33	
パラグアイ	—	55	12.1	—	—	303	0.494	—	0.7	84	—	
ペルー	7.42	314	74.93	144.7	3676	4110	3.0	158	1.1	99	15	
ドミニカ	—	124	75.3	—	—	4257	0.243	—	0.8	—	10	
ウルグアイ	—	615	137.3	—	—	1561	3.0	104	6.6	220	51	
ベネズエラ	51.0	803	215.0	4450.0	197428	13221	0.352	330	2.9	386	48	

ラテンアメリカ各国の比較

第4表 基礎的な調査報告

第5表 社会の資料

項目 単位 国名	全面積	可耕面積	全人口	人口密度	1人当り	1人当り	平均	死亡率	消費	教育率	医師1人
	1000km <sup>2</sup>	1000ha	1000人	km <sup>2</sup> 当り	年取(北)	1960年	1963年平均	1000人当	1人当	%	当住民数
アルゼンチン	2808	30602	21762	7.7	692	59	59	3000	90	?	670
ボリビア	1098	11862	4206	3.8	110	50	102	1880	20~30	?	3900
ブラジル	8533	19626	79830	9.4	274	45	171	2860	50	?	2500
コロンビア	1179	5189	16520	14.0	354	46	90	2070	?	?	2400
コスタリカ	51	280	1402	66.8	402	58	67	2550	?	?	2200
チリ	742	5569	8455	11.4	465	52	111	2360	83.6	?	1600
エクアドル	290	2234	4900	16.9	270	52	107	1970	63	?	2600
エルサルバドル	21	5460	2800	133.3	294	58	68	1975	48	?	4800
グアテマラ	109	1470	4300	3.9	275	44	91	2175	28	?	4900
ハイチ	28	380	4500	160.7	77	38	150	1875	20	?	11000
ホンジュラス	112	998	2150	19.2	184	44	44	2340	47	?	4600
メキシコ	1973	19923	39500	20.0	352	62	68	2650	66	?	1800
ニカラグア	148	1939	1600	11.5	272	50	54	2200	51	?	2800
パナマ	76	567	1200	15.8	447	62	54	2350	78	?	2500
パラグアイ	406	529	1900	4.7	195	45	52	2440	?	?	1700
ペルー	1331	1997	11050	8.3	250	46	97	2370	60	?	1700
ドミニカ	50	701	3040	60.8	215	?	97	2080	60	?	4800
ウルグアイ	187	2562	3000	16.0	615	67	47	2980	91.5	?	870
ベネズエラ	912	5380	8640	9.5	616	66	46	2346	?	?	1400

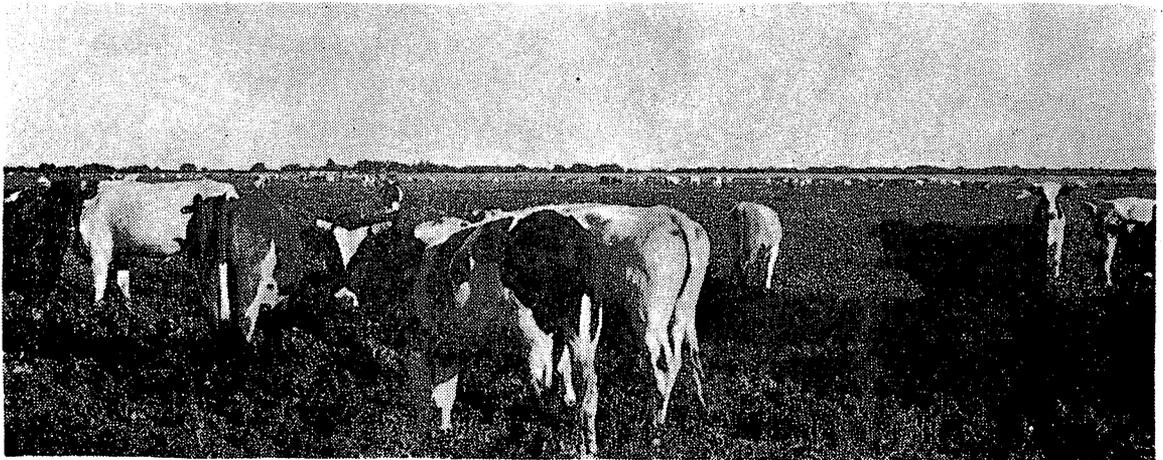
(アルゼンチン政府調査資料)

り約100年おくれれているが、アメリカ合衆国の独立(1776)とその後の発展ぶりに比べて、ラテン・アメリカの地域は広大な土地と豊かな資源に恵まれながら長い眠りを続け、その停滞はいわゆる後進地域として取残されていた。

しかし第二次大戦を境いとして漸く民族主義運動が盛り上がり、農牧業の技術的發展を進める一方国土の開発に力を入れ、工業の生産發展への努力がなされつつある。また南半球の多くを占める後進、低開発諸国の開発援助が国際間の重要課題となるに及んで、アメリカ合衆国の援助は米州機構(OAS)、汎米道路の建設、進歩のための同

盟などを通じて積極化されている。更に国連機構によるラテン・アメリカ経済委員会(ECLA)の活動及び欧州移住国政府間委員会(ICEM)やラテン・アメリカ自由貿易連合(LAFTA)の結成などによりラ米地域の開発は現在大きく進展しつつある。

ラテン・アメリカ各国の状況は別表第1表から第5表までの中に詳しいことが分るので、それらについての説明は省くことにするが、いくらかなりともラテン・アメリカの国々について関心を持つものはそれらの表を十分検討してもらうようお勧めする次第である。(新垣 真保)



牧畜国アルゼンチンの大牧場

アルファルファーをはじめいろいろの牧草が豊かで、飼料は牧草だけだが牛はいつも肥え太っている。アルゼンチンは年間1000万頭位の牛を屠数する。